

教 育 経 済 委 員 会 会 議 録

1. 日 時 令和元年10年1日（火曜日）

午前9時30分～午前11時39分

2. 場 所 委員会室

3. 出席委員 戎 屋 昭 彦 委 員 長 下 井 克 己 副委員長
 徳 並 伍 朗 委 員 秋 山 哲 朗 委 員
 岩 本 明 央 委 員 秋 枝 秀 稔 委 員
 猶 野 智 和 委 員

4. 欠席委員 なし

5. 委員外出席議員

 荒 山 光 広 議 長

6. 出席した事務局職員

 石 田 淳 司 議会事務局長 阿 武 泰 貴 議会事務局係長
 篠 田 真 理 議会事務局主任

7. 説明のため出席した者の職氏名

 波佐間 敏 副 市 長 西 田 良 平 観光商工部長
 末 岡 竜 夫 観光商工部次長 西 村 明 久 商工労働課長
 早 田 忍 観光振興課長

8. 会議の次第は次のとおりである。

午前９時３０分開会

○委員長（戎屋昭彦君） おはようございます。ただいまより、教育経済委員会を開会いたします。

さきの本会議におきまして、本委員会に付託されました市長提出議案２件につきまして、審査いたしますので御協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、これより審査を始めます。

議案第９２号平成３０年度美祢市観光事業特別会計決算の認定についてを議題といたします。執行部より説明を求めます。千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 議案第９２号平成３０年度美祢市観光事業特別会計の決算について御説明いたします。

最初に、主要施策成果報告書の２２、２３ページをごらんください。

観光事業特別会計の平成３０年度決算は、歳入総額６億９，５８８万６，０００円、歳出総額６億１，６３６万９，０００円で、歳入歳出差引額７，９５１万７，０００円となりました。

右の２３ページをごらんください。

観光関連施設入洞者・利用者推移の表になります。平成３０年度の三洞の入洞者数についてですが、一番下になりますけども、秋芳洞は４７万６，２８２人で対前年度３万８，９２７人の減、大正洞の入洞者数は６，９８０人で対前年度１，１６９人の減、景清洞の入洞者数は１万６，２０４人で６１７人の減となっております。

それでは、歳入につきまして主なものを御説明いたします。

決算附属資料の１４２、１４３ページをごらんください。

１款観光収入について、総額は５億１，２８６万３，３６０円です。

１項観光収入、これは秋芳洞・大正洞・景清洞の観覧料になりますが、４億９，４０５万７２０円です。

次に、２項養鱒場収入が１，８８１万２，６４０円です。

次に、２款使用料及び手数料については、総額が２，４０７万１，３２３円です。主なものは１項使用料・１目観光事業使用料・２節広谷駐車場使用料の１，９６４万９，６００円です。

続きまして、１４４、１４５ページをごらんください。

4 款財産収入・1 項財産運用収入・1 目財産貸付収入が7 0 万5, 4 7 9 円です。
これには、養鱒場の養殖池の貸付料5 0 万円が入っております。

5 款繰入金につきましては、総額1, 6 6 1 万5, 9 7 8 円です。

1 項一般会計繰入金が1, 1 3 1 万5, 9 7 8 円です。この内訳には記載して
おりませんが、秋吉台リフレッシュパークのトロン温泉に係る市民福祉利用の補填分
と、秋芳洞等における市主催事業等による観覧料減免に係る補填分として2 3 8 万
4, 9 9 2 円を、地方創生推進交付金事業分として8 9 3 万9 8 6 円を一般会計か
ら繰り入れております。

2 項基金繰入金が5 3 0 万円です。建設改良工事の財源として、観光事業運営基
金を取り崩しております。

次に、6 款繰越金につきましては、総額が1 億2, 8 4 8 万5, 4 9 1 円です。

7 款諸収入については、総額1, 1 9 7 万8 3 7 円です。主なものは、秋芳洞の
冒険コースの利用料であります。

なお、1 ページ前になりますが、鱒販売収入におきまして1 6 万4, 9 8 0 円、
雑入におきまして5, 0 0 0 円不納欠損処理をいたしております。

これは、平成2 5 年度、2 6 年度の鱒の販売代金と、平成2 6 年度のこれに係る
保冷材等の販売代金についてであります。債務者は1 名でありますけども、御本人
様死亡、そして相続人の方の相続放棄等によりまして、当該債権を放棄したもので
あります。

続きまして、歳出の主なものについて御説明を申し上げます。

1 4 8、1 4 9 ページをごらんください。

1 款観光総務費については、総額3 億6, 9 8 1 万8, 2 4 4 円です。内訳は、
1 項総務管理費・1 目一般管理費が2 億1, 9 7 1 万6, 2 6 7 円です。

主なものについて説明いたします。

1 1 節需用費で2, 2 1 5 万4, 9 8 3 円の支出をいたしております。光熱水費
と修繕料が主な支出となっております。

1 2 節役務費で1, 2 9 2 万7, 3 9 9 円の支出をしております。主なものは、
観光あっせん手数料でございます。

また不用額が4 0 0 万8, 6 0 1 円となっております。これの主なものは、観光
あっせん手数料で団体観光客のあっせん手数料の支出減によるものであります。

13節委託料で1億982万6,265円の支出をしております。主なものは、リフレッシュパークと家族旅行村の指定管理委託料7,266万5,481円、秋吉台地域景観・施設整備基本計画策定業務委託料1,998万円、観光事業地方公営企業法適用支援業務委託料896万4,000円です。

また不用額が401万8,735円となっております。これの主なものは、リフレッシュパークのボイラー燃料費になります。

14節使用料及び賃借料で1,319万7,559円の支出をしております。主なものは借地料になります。

15節工事請負費で378万円の支出をしております。これは、家族旅行村における遊具等撤去工事になります。

27節公課費で1,976万7,300円の支出をしております。これの主なものは、消費税及び地方消費税であります。

28節繰出金で508万7,530円の支出をしております。これは環境衛生事業特別会計への繰出金となっております。

次に、2目施設管理費が4,563万5,550円です。

主なものは、11節需用費で633万1,266円の支出をしております。これの主なものは修繕料であります。

13節委託料で3,106万7,406円の支出をしています。これの主なものは、清掃環境施設保守の委託料で、また秋芳洞内測量、秋芳洞内通路調査及び設計検討業務委託料として611万2,800円を支出しております。

15節工事請負費で783万6,480円の支出をしております。秋吉台案内所塗装ほか改修工事ほか4件の工事を行っております。

続きまして、2項管理業務費については、総額1億446万6,427円です。

続きまして、150、151ページをごらんください。

1目秋芳洞業務費が6,495万6,862円です。

主なものは、13節委託料で4,718万4,873円の支出をしております。この主なものは、秋芳洞案内業務委託料となっております。

続きまして、2目大正洞・景清洞業務費は1,946万2,686円です。

主な支出につきましては、13節委託料で1,687万1,771円を支出しています。これの主なものは窓口業務に係る業務委託料となっております。

次に、3目養鱒場業務費につきましては2,004万6,879円を支出しております。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 続きまして、2款観光振興費・1項振興管理費・1目一般管理費について、歳出総額1億1,258万2,555円でございます。主な支出につきまして御説明いたします。

9節旅費として498万5,925円を支出しております。これの主なものは情報発信体制強化事業による国内への出張及び外国人観光客受入体制充実事業の海外への出張旅費であります。

次に、13節委託料として669万4,381円を支出しております。これの主なものは、体験プログラム開発事業の情報発信委託料、及び外国人観光客受入体制充実事業の台北観光・交流事務所の現地への業務委託料であります。

次に、14節使用料及び賃借料として136万2,224円を支出しております。これの主なものは、外国人観光客受入体制充実事業の台湾交流事務所の借上料であります。

次に、19節負担金補助及び交付金として7,324万6,197円を支出しております。これの主なものは、情報発信体制強化事業の秋芳洞等の観光宣伝を実施した観光プロモーション事業補助金、また一般社団法人美祢市観光協会の経営基盤を強化するための観光協会補助金、またイベント開催事業として、秋吉台観光まつりの運営を支援した秋吉台観光まつり補助金、体験プログラム開発事業として、美祢市観光協会が実施する着地型観光の企画運営を支援しました着地型観光企画運営事業補助金、さらに、外国人受入体制充実事業として、東アジアを中心とした外国人観光客を誘致するための美祢国際観光交流推進協議会補助金であります。

また、不用額が267万6,803円生じておりますが、これは情報発信体制強化事業において、観光協会の補助金についての精査、及び外国人受入体制充実事業の美祢国際観光推進協議会の精算による戻入によるものであります。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 3款基金積立金になります。

基金積立金につきましては、1億2,003万1,282円を支出いたしております。

ます。

この結果、特別会計から見た平成30年度末の基金残高は3億3万2,180円というふうになっております。

続きまして、4款他会計借入金償還費につきましては1,393万6,344円を支出いたしております。これは、投資的建設改良費として平成27年度に8,250万円を、平成28年度に5,640万円を一般会計から借り入れたものの元利償還金になっております。

以上、観光事業特別会計決算について、説明を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） 説明が終わりました。それでは本案に対する質疑はございませんか。猶野委員。

○委員（猶野智和君） 先ほど御報告があった中で、秋芳洞の入洞者数の報告もあったんですが、30年の入洞者数が対前年度比で7.6%の減ということの御報告がありました。

大きな減があったわけですけど、これの大きな要因等を分析等されておりましたら、御説明をお願いいたします。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 猶野委員の御質問にお答えをします。

平成30年度において入洞者数が減少しておるということでございます。特に減少が大きい月につきましては、7月が約1万人、10月が約1万人の減少をしており、他の月につきましては、前年度から多少減少しているところでございます。

7月につきましては、災害による閉洞による影響、また10月につきましては、山口ゆめ花博が開催され、終日型のイベントが開催された関係で、本市への周遊が確立できていなかったことが原因ではないかというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 猶野委員。

○委員（猶野智和君） それと、ちょうど平成31年、令和元年度が、ちょうどもう9月末で半年過ぎたということなので、今年のこれまでの半年間の推移といたしますか、それは、対前年度でいうとどのぐらいで推移しているか御報告をお願いします。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 猶野委員の御質問にお答えいたします。

秋芳洞の令和元年度の入洞者の状況でございます。この9月末までで、30万6,154人の入洞者がございまして、累計で1万324人の増。累計で申し上げますと、9月末累計でいうと対前年3.49%増という現状になっております。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 猶野委員。

○委員（猶野智和君） 対前年度で伸びてるといふ、ことし前半。でも、おとしとつか、2年前に比べると、まだ全体の流れでは、まだ追いつかないっていう感じがつかね。長い目で見ての減少傾向は続いているのかなと思いますが、今後1年を通して、大体3%前後の増ぐらいで見込むぐらいでお考えかどうか、ちょっとお願いします。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 猶野委員の御質問にお答えいたします。

今年度9月末で対前年度比較しますと増えておりますけれども、増えてる要因は、やはり4月、5月が非常に対前年と比べて多かったわけでありまして。天候にも恵まれたこともありますし、日の並びといいますか、祝祭日の関係、大型連休になっているということも影響しているというふうに思っております。

4月、5月は、6月もですけども、対前年同月比増なんですけども、それ以降はずっと減少傾向が出ておりますので、今年度についても下半期は厳しいのではないかなというふうに推測をいたしております。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 猶野委員。

○委員（猶野智和君） ちょうど10月1日ということで、これから半年間、消費税の影響で景気がどうなるかもありますし、ちょうど入洞料もきょうからですかね、きょうから入洞料と駐車料金も値上げになるということなので、その影響がどうなるか不安なところもあるんですが、ぜひとも、これから最低でも対前年度を超える――通年を通してですね、するぐらいのことで期待しておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑はございませんか。下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） 1の1の1のところだから何ページですかね、148ページですか。

あっせん手数料が400万円不用になっておりますけど、これっていうのは、例えば引き下げを——7月の雨により入洞者数が減ったとか言われましたが、そういうツアーが中止になったことによって、これだけの額が出たものでしょうか。それとも、当初予定しておった、お願いしとった業者さんがキャンセルというか、ツアーが組めなかったということで、このような不用額になったのか、どうでしょうか、お願いします。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 下井副委員長の御質問にお答えいたします。

あっせん手数料につきましては、団体旅行客を増やそうという趣旨で観覧料金の12%キャッシュバック、お支払いしているというような形になっております。

ちなみに、平成30年度、秋芳洞なんですけども、秋芳洞団体の入洞客数が、全体が47万6,282人のうち、19万7,297人が30年度の団体入洞者になっております。29年度が25万9,526人ということで、団体観光客数が年間を通して大幅に減っているという現状があります。そのことから不用が生じております。

以上であります。

○委員長（戎屋昭彦君） 下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） ですから、当初予定より少なかったということなんですけど、その辺の理由というのは、どのようにお考えでしょうか。

例えば、先ほど申しましたように、7月の雨とか花博とか、そういうので確かに減ったと思います。だけど、ツアーに組まれなかった理由というのがあると思うんですよ。その辺のことをどのようにお考えでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 下井副委員長の御質問にお答えをしたいと思います。

近年、観光客のニーズが団体旅行から個人旅行へシフトしてきているという実情もございます。

また、職域あるいは地域での旅行の減少、そして学生の修学旅行も減少してきて

いるということでございますので、団体旅行客が減ってきているというのが一つの現状ということであります。

なぜ減ってきたかということでございますが、秋吉台での現在体験メニューなりっているのが少し不足をしてきておると、さらに学術的なツアーも少し少ないのではないかというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） 体験メニューが不足ということで、学術的にも貴重なところなので、そのあたりをまた、修学旅行等、常に誘致するようにお願いしたいと思います。

もう1件、すみません、借地料が49万円。借地料っていうのは決まっているから、こんなに不用額が出ると思えないんですけど、常にこれぐらい出ていたんでしょうか。それとも、何かもう、ここは使わなくなったからというところがあるんでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 下井副委員長の御質問にお答えいたします。

借地料につきましては、契約内容といいますか、秋芳町は地籍調査が終わっております、その結果、土地の面積が変わっております。このたび、地籍調査後の新しい面積にやりかえを行ったということであります。その結果でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） このたびという……。地籍調査が終わって10年ですかね。法務局の関係で、見直しされたのが今回という理解でよろしいでしょうか。

（発言する者あり）

もう1件、すみません。委託料の211万円、これは草刈り等で使われた分だと思うんですけど、211万円の不用額が出ております。

こういう不用額を見て、例えば3月ぐらいに、ある程度のめどは立つと思うんですけど、そういうところで4月の旅行者に対して、この辺の草を刈っちゃったほうがいいんじゃないかなとか、211万円あったら少しでも刈れると思うんですけど、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 下井副委員長の御質問にお答えいたします。

景観の整備につきましては、せっかくお越しいただけるお客様に気持ちよくなっていたきたいというふうに思いますので、草の関係はなかなか天候だとか、作業をしていただく人との調整が非常に難しい部分があるんですけども、できるだけそこを丁寧に行って、快適な景観形成に努めてまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） ですから、例えば地域の方の要望が、例えばもう2月、3月にはなかったと。自分たちで、美祢市として、執行部として見たときに、さほどの影響はないんじゃないかなというふうに思われたから211万円余ったんじゃないかと思うんですが。例えば、私が見た感じでは、ここは草を刈っちゃったらいいのになという感じのところもあったわけなんです。

そのあたりを、例えば2月、3月に地域の方が要望されたら、不用額が今回あるから少し刈ろうとか、そういうことができるのかどうか。要するに、地域の要望が出れば、ちょっとやっていただけるのかっていうことですが、すみませんが。

○委員長（戎屋昭彦君） 千々松観光総務課長。

○観光総務課長（千々松雅幸君） 下井副委員長の御質問にお答えいたします。

地域の要望がございましたら、それを受けとめまして、しっかり検討していきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。その他質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） それでは、この議案につきまして、市長に出席していただき質疑を行うことについて、委員の皆様方の御意見をいただきたいと思います。

必要があればということでございます。だから必要なければ……。今問いかけを委員長のほうからさせてもらってますんで。（発言する者あり）そうです。この今決算について、市長に問い合わせの必要があれば呼びます。必要なければ出席はしていただきません。（発言する者あり）

それでは、質疑なしということで質疑を終わります。

それでは、これより議案第92号の討論を行います。本案に対する御意見はござ

いませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 御意見なしと認め、討論を終わります。

それでは、これより議案第 9 2 号を採決いたします。本案について原案のとおり認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 全員異議なしと認めます。よって、議案第 9 2 号は原案のとおり認定されました。

次に、議案第 9 9 号令和元年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第 2 号）を議題といたします。執行部より説明を求めます。早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） それでは、議案第 9 9 号令和元年度美祢市観光事業特別会計補正予算（第 2 号）について御説明いたします。

まず、歳入のほうから御説明申し上げます。

予算に関する説明書の 8 ページ、9 ページをお開きください。

5 款繰入金・1 項一般会計繰入金・1 目一般会計繰入金を 1, 1 5 0 万円減額しております。

次に、2 項基金繰入金・1 目観光事業運営基金繰入金を 1, 1 5 0 万円減額しております。

いずれも、秋吉台・秋芳洞地域観光地再生事業の業務内容や委託期間の見直しに伴い、減額するものであります。

続きまして、歳出について御説明いたします。

1 0 ページ、1 1 ページをお開きください。

1 款観光振興費・1 項振興管理費・1 目一般管理費、説明欄 0 1 4 秋吉台・秋芳洞地域観光地再生事業になります。

観光地再生事業として 2, 8 0 0 万円減額しております。これは、委託内容や期間を精査したこと、また期間中に実施する業務が不要となり、委託料 2, 3 0 0 万円、及び成功報酬の対象となる期間を短縮したため、報償費 5 0 0 万円をそれぞれ減額するものであります。

最後に、5 款予備費として 5 0 0 万円増額しております。

次に、1 2 ページをお開きください。

ここでは、債務負担行為をお示ししております。

これは、秋吉台・秋芳洞地域観光地再生事業として、令和２年度から令和４年度まで４億１，５００万円を計上しておるものでございます。当該事業は、令和元年５月臨時会において提案し、可決いただいた秋吉台・秋芳洞地域観光地再生事業に係るものであります。

５月臨時会の附帯決議に基づき、８月の教育経済委員会において、事業実施に係る業務仕様書及びプロポーザル実施要領などの説明を行ったところ、今後実施する業務を踏まえるような御意見があり、部内で検討したところであります。

その結果、当該業務において、秋芳洞をはじめとする三洞への来訪者を下げ止め、持続的な増加に転じるには、事業の推進体制を構築し、地域事業の見直しや経営強化につながる提案、事業の見直しに伴う観光施設の運営に係る提案などの観光事業コンサルティング、また来訪者のニーズを把握するための施設の整備、それを活用した分析に基づく全体戦略や年度計画を策定する観光マーケティング業務、また観光ニーズや地域のイメージを増幅するブランディングや情報発信、地域特有の景観を活用し、地域と連携したアクティビティやブランドコードデザインの開発、さらに、平成３０年度に策定した秋吉台地域景観・施設整備基本計画の深度化を図り、施設整備の全体計画の策定が必要となるものであります。

これらの業務を、市をはじめとする観光関連団体や地域に、その手法やノウハウを落とし込むには、さらにそれを実践する必要があると考えられることから、今年度を含め、４年程度の期間が必要ではないかという結論となったものであります。

今後、当該事業を実施し、秋吉台・秋芳洞地域を再ブランディングすることで、来訪者に美しさと利便性を併せ持つ観光地となるよう、ハード、ソフトを一体的に整備し来訪者の増加を図ることで、地域の活性化と観光事業特別会計の経営の強化を図るものであります。

また、事業費の内訳につきましては、各年度の予定額として、令和２年度においては委託料１億３，０００万円、報償費２，０００万円、令和３年度においては委託料として１億１，５００万円、報償費として２，０００万円、令和４年度においては委託料として１億１，０００万円、報償費として２，０００万円となっており、委託料の合計額は３億５，５００万円、報償費の合計額は６，０００万円となり、債務負担額４億１，５００万円となっておるものであります。

また、報償費につきましては、要件を全て達成したとき、基準となる収入額を超えた部分の2分の1を委託事業者に支出することとしております。

なお、この事業の特定財源として、地方創生推進交付金を充当しております一般会計からの繰入金金を1億1,000万円、観光事業運営基金繰入金金を2億4,500万円を充当し、6,000万円については観光事業特別会計の一般財源となっております。

以上で、令和元年度観光事業特別会計補正予算（第2号）の説明を終わります。

○委員長（戎屋昭彦君） 説明が終わりました。

それでは、本案に対する質疑はございませんか。よろしいですか。猶野委員。

○委員（猶野智和君） いろいろ御説明いただいたんですが、御説明の最中にも、ちょっと意見があったんですけど、いろいろな明細などを今、口頭でいろいろ御紹介いただいたんですけど、できれば、わかりやすい資料がいただけると……。

何ていうか、債務負担行為のところを見れば、その他3億5,500万円っていうのが委託料なんだろうなという説明と、一般財源の6,000万円が報償費に当たるんだろうなっていうのはわかるんですけど。できれば、ずばりそのようなことが書いてある資料があれば、ペーパー化していただければいいなあと。そうすれば委員としても、どういう事業なのか内容がわかると思うので、そのあたりちょっと御配慮いただけるといいなと思うんですが。

○委員長（戎屋昭彦君） 今猶野委員からございました、そのあたりの資料はどうですか。早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 猶野委員の御質問にお答えします。

ただいま資料請求がございました件については、時間をいただければ提出は可能かというふうに思っております。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） それでは、ここで暫時休憩いたします。

午前10時09分休憩

午前11時15分再開

○委員長（戎屋昭彦君） 休憩前に続き、委員会を開会いたします。

先ほど、委員の方々から今年度の補正予算の減額、並びに来年度以降の3カ年の

債務負担行為の金額についての詳細説明が欲しいということで資料要求がありましたので、資料が手元にまいりましたんで、執行部のほうから説明を求めます。早田 観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） それでは、先ほどの御指摘の資料のほうの説明をさせていただきますと思います。

お手元のほうに、資料が行っておると思います。

まず最初に、美祢市観光事業特別会計補正予算（第2号）ということで、臨時会において可決いただいた当初の7,000万円、委託料の6,000万円、報償費1,000万円、合計7,000万円が記載してございます。

次に、今回の補正額ということで、委託料においては2,300万円、報償費を500万円、合計で2,800万円を減額させていただき、補正後の額として委託料は3,700万円、報償費500万円、合計で4,200万円となったものでございます。

この主な理由といたしましては、委員会の際に御指摘いただいて、今後の全体的な計画も見直しながら作成してみたらいかかということで、部内で検討に時間を要し、当初の発注時期——10月を予定しとったところですが、着手が12月に遅れるということでございますので、2カ月遅れた関係で減額をしたものでございます。

その委託料等の減額の内容につきましては、二つ目の表、令和元年度の内訳というところに記載してございます。

観光コンサルティング業務が470万円、ブランドデザインコードが1,000万円、データ分析が800万円、プロモーション業務が410万円——データ分析が80万円、プロモーション業務が410万円、旅費が340万円、成功報酬が500万円、それぞれ減額となり、翌年度以降に実施をするということで、減額をさせていただいております。

最後に——最後の表でございます。こちらにつきましては、債務負担の内訳ということで、説明をさせていただきます。

令和2年度から令和4年度の債務負担の合計額といたしまして4億1,500万円。その内訳につきましては、令和2年度に委託料が1億3,000万円、報償費が2,000万円、合計で1億5,000万円、令和3年度委託料が1億1,

500万円、報償費が2,000万円、合計で1億3,500万円、令和4年度に委託料が1億1,000万円、報償費が2,000万円、合計で1億3,000万円となり、委託料の合計額は3億5,500万円、報償費の合計が6,000万円、合計で4億1,500万円となるものでございます。

また、この財源といたしまして、1億1,000万円が国からの地方創生推進交付金を充当して実施することとしており、3億500万円は観光事業特別会計の支出で賄うものというふうにしております。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長、説明の中の資料が一部、見せてもらいましたら、令和元年度の内訳のところ、上の表には報償費で書いてありまして1,000万円で500万円減額。下のほうは成功報酬となっていますから、ここは訂正されますか。

○観光振興課長（早田 忍君） 訂正させていただきます。

○委員長（戎屋昭彦君） じゃあ報償費ということで。

今、この資料についての説明がございました。この資料を含めまして、先ほどの質疑に入りたいと思います。委員の方々から、質疑のほうをお願いしたいと思います。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 質問じゃあ——質問になるかどうかわかりませんが、観光客が減少で、目を覆うばかりの惨状になっておるというふうに理解しております。ここで、起死回生策をこの予算でやられるということで、ぜひとも、この予算で起死回生をしてほしいというふうに思っております。

先ほど、国の交付金が1億1,500万円というふうに言われましたが、これは3年間同じように来るんでしょうか、それと省庁はどこの省庁になるんですか。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 秋枝委員の御質問にお答えをします。

予算の配分につきましては、1億1,000万円は、令和2年度、令和3年度の2年度分ということになります。省庁につきましては、地方創生推進交付金ですので、総務省になろうかというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 秋枝委員、よろしいですか。

○委員（秋枝秀稔君） 総務省と言われましたか。

○委員長（戎屋昭彦君） 総務省になろうかという御回答だったと思います。

その他質疑ございますか。ございませんか。質問ございませんか。下井副委員長。

○副委員長（下井克己君） 申しわけございません。来年、再来年、令和4年まで、1億3,000万円、1億1,500万円、1億1,000万円と、委託料というふうに計上されておりますが、これについて、今からプロポーザルの関係で何をするかはわからないんだけど、今執行部の方がどのように考えておられるか、ひとつ御説明願えればと思います。

○委員長（戎屋昭彦君） 早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 下井副委員長の御質問にお答えします。

令和2年度以降の業務の内容ということだと思います。

こちらにつきましては、先ほども少し説明させていただいたところでございますが、大きくは、事業の見直しや観光施設などの運営に係る提案による観光コンサルティング業務であったり、来訪者のニーズを把握するための設備の整備、またそれを活用した分析による——分析などを行った結果のマーケティング業務、あるいは年度計画の策定であったり、地域のイメージを増幅するためのブランディングやデザインコードの開発、さらには昨年度、30年度に策定をしました秋吉台地域景観・施設整備基本計画の深度化を図って、今後計画的な施設整備を行うための全体計画を策定するという業務を予定をしておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） よろしいですか。その他質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 質疑がないようでしたら、私、発言は余り控えているんですけど、1カ所だけ、報償費の2,000万円についての令和2年度以降、3年、4年度の——ことしの報償費につきましては、前年度の売り上げをベースということでございましたけど、令和2年度以降の報償費についての考え方について、御説明していただけたらと思います。早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 戎屋委員長の御質問にお答えをします。

消費税の改定に伴う対応……すみません。

○委員長（戎屋昭彦君） いや、消費税の改定じゃなくて報償費の考え方について。

早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 戎屋委員長の御質問にお答えします。

成功報酬の考え方……。

○委員長（戎屋昭彦君） 報償費。

○観光振興課長（早田 忍君） 報償費の考え方ということでございます。

こちらにつきましては、三洞の入洞者数の減少が続いているということでございます。これにつきましては、観光事業の安定的な運営が懸念される中、今後も緩やかな上昇を描くために、民間からのノウハウを最大限に引き出すために、成功報酬を設定するというところでございます。

成功報酬の考え方でございますが、まず、支払いに関しての条件というものをまず定めております。

こちらにつきましては、まず収入額、それと三洞の入洞者数、さらに地域への経済——地域経済の寄与について、また地域へのアンケート調査、この4項目について、4項目の条件を達成したときに報酬が成立するというふうな設計にしておるところでございます。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） すみません。今、早田観光振興課長から、報償費の考え方全般にお話がありましたが、令和2年度、3年度、4年度の報償費のベース。

先ほど私、余り質問できない……。

今年度の報償費については、前年度のベースを参考に、売り上げの増えた部分の上限が1,000万円ということで御説明があつて、減額——期間が短くなったから減額ということでございましたけど。

令和2年度以降の報償費2,000万円については、多分1年間だから2,000万円だと思いますけど、報償費を払うベースの数値っていうのは何を基準に考えていらっしゃるかのところの質問を私はさせていただきました。早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 戎屋委員長の御質問にお答えします。

年度の——前年度の収入額と事業実施年度の収入額を比較して、上回った部分についての2分の1を支払うものということにしているものです。

○委員長（戎屋昭彦君） だから今、前年度って多分、早田観光振興課長言われたと

思うんですけど、令和２年度は逆に今年度、令和３年度は令和２年度がベースということになるんですか。早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 戎屋委員長の御質問にお答えします。

あくまでも前年度、対前年度ということでございます。

以上です。

○委員長（戎屋昭彦君） その他質疑ございませんか。秋山委員。

○委員（秋山哲朗君） 恐らく、４億１，５００万円ですか、膨大な金額、初めての試みですから、必ずこういうふうなことはやらなくてはいけないっていうのは、皆、恐らくわかっていると思うんですよ。

ただ、議員も、ここにおられる議員は、皆不安だと思うんですよ。こんな今財政厳しいときに、お金かけていいのっていうのはあろうと思うんですよ。

そして一つ調べてほしいというのが、何がベースなんか、全国の中で、こういうふうな地域の再生事業という中でやった成功例があるかどうかですよ。そういうふうな、こういう例があるよ、こういうことをやって、こういうふうな成功をしたよっていうことがあれば、ぜひ教えていただきたいのと、今、このメンバーは意見がないようですから、非常に不安に思っている議員が、まだほかに、この委員会を外れた委員がおられますので、ぜひ、合同審査がいいかどうかわかりませんが、できるならば、そういう形の中で、全員が集まって……。

というのも、来年、我々は改選期でありますので、なかなか責任を持つ——これで責任を持つということは、なかなかできないかと思うんですよ。そういった意見を聞く場の合同審査という形を、ぜひとっていただきたいなというふうに思っております。

その辺、取り計らいをよろしくお願いします。すみません、連合審査ということです。

○委員長（戎屋昭彦君） 今、秋山委員のほうから、ほかの委員の方もいらっしゃるということで、連合審査の提案がございました。

これにつきまして、ちょっと暫時休憩とりまして、議長、それから他の委員長と相談しまして、御報告したいと思います。

ここで、しばらく暫時休憩いたします。

午前１１時３１分休憩

午前 11 時 38 分再開

○委員長（戎屋昭彦君） 休憩前に続き、委員会を開会いたします。

早田観光振興課長。

○観光振興課長（早田 忍君） 委員長のお許しをいただきましたので、発言の訂正をさせていただきたいと思います。

先ほど、地方創生推進交付金の所管の部署ということでございました。総務省というふうに発言をしましたが、内閣府の間違いでございました。訂正させていただきます。

以上でございます。

○委員長（戎屋昭彦君） 先ほど休憩前に、秋山委員のほうから提案がありました。

議案第 99 号は、5 月臨時議会で、本教育経済委員会及び本会議で附帯決議を可決していることや一般会計との関連があることから、予算決算委員会との連合審査を申し出たいと思いますけど、皆様方の御異議はございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（戎屋昭彦君） 御異議なしと認めます。

それでは、予算決算委員会との連合審査を申し出ることになりました。

この際、暫時休憩いたします。

午前 11 時 39 分散会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和元年10月1日

教育経済委員長